

低コスト・高品質で喜ばれる 食材リサイクルを構築



環境テクシス
社長 高橋 慶



愛知中小企業家同友会の元気印

食品廃棄物リサイクルによる飼料、有機肥料の製造販売を行っている、食品メーカーなどから出される食品廃棄物を飼料化し、主に豚の畜産農家さんに販売することを主な事業としています。

名古屋大学農学部を卒業後、水処理プラントメーカーに就職したのですが、景気が悪いころで社内の雰囲気も悪く、またサラリーマンに向いていないと感じたこともあって、10年間勤めた後、2005年3月に会社を起しました。

何をやるのかと考えたとき、大学にいた時の研究室がリサイクル関係をやっていたこと、勤めていた会社が堆肥の原料となる汚泥を取り扱っていたことから、その関係をと当初は思っていました。しかしちょうど資源価格が上がっていた時期で、特に家畜の餌が高騰していたことから、知人に勧められて餌の仕事を始めました。

こういうリサイクルの仕事をしている人って、技術的な部分に詳しくない人が多い。それに対し

▼豊川市にある環境テクシスのリサイクル工場



▲野菜くず、菓子の端切れなどさまざまな食品廃棄物が粉碎・ブレンドされ、高品質な飼料へと生まれ変わる

て私は農学部を出ており基本的な知識があること、大学の先生との連携の仕方を知っていますので、肉質が良くなる飼料などを大学と共同研究し、低コストで高品質なリサイクルを実現。後発ではありますが、競合他社に対して差を出せています。

また、「お客さまのメリットとなること」をビジネスの基本

く信頼してもらっています。

うちの会社が恵まれているのは、事業自体が存在意義となっていること。でも現場スタッフ

はそれを意識しづらいので、時には畜産農家さんのところへ連れていったり、忘年会ではうちの飼料を食べていい肉質になった豚肉を使う焼き肉店に行き、

われわれの仕事の最終成果を皆に実感してもらったりしているんです。

こなしきれないほど問い合わせが来ています。

いま力を入れているのは食品メーカーさんに機械を販売し、ある程度までそこで加工していただくこと。リサイクルの機械

を売っているところはいろいろありますが、うちは加工した物の引き取りまでをセットにして

おり、さらには設備投資が少なくて済むよう補助金の書類作成も行います。そのようなオール

スタンスにしており、販売先の畜産農家さんに対してはもちろんのこと、仕入れ先の食品メーカーさんに対しては、単に廃棄物を処理するだけでなく、リサイクルさせるためにきれいに扱うことで衛生環境がよくなるなど、いろいろメリットを出せる

枠組みづくりをしています。そういう姿勢でやっていると、営業であまり苦労しないですね。おかげさまでHPからだけで、